

平成 23 年度 千代田学
「千代田区における教育支援員の育成に関する実践研究」
成果報告書

平成 24 年 3 月

大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター

目 次

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2	事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	5
3	事業の実施体制・・・・・・・・・・・・	7
4	実施した事業内容・・・・・・・・・・	8
	(1) 特別支援教育支援員育成プログラム	
	(2) 理科支援員育成プログラム	
	(3) 野外活動支援員育成プログラム	
5	応募・受講者・・・・・・・・・・・・	10
6	受講者の評価・・・・・・・・・・・・	10
	(1) 特別支援教育支援員育成プログラム	
	(2) 理科支援員育成プログラム	
	(3) 野外活動支援員育成プログラム	
7	事業評価（外部評価）・・・・・・・・	22
	(1) 特別支援教育支援員育成プログラム	
	(2) 理科支援員育成プログラム	
	(3) 野外活動支援員育成プログラム	
8	本事業のまとめ（内部評価）・・・・	24
	(1) 特別支援教育補助員育成プログラム	
	(2) 理科支援員育成プログラム	
	(3) 野外活動支援員育成プログラム	
9	おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・	31

1 はじめに

平成 23 年度の千代田学「千代田区における教育支援員の育成に関する実践研究」も皆様方のご支援とご協力により、何とか無事終了することができました。こうして報告書を作成する段階を迎えられて、支えてくださったたくさんの方々に感謝をするとともに、あまりにいろいろあった 1 年間を振り返ってほっと一息ついています。

そもそもは、昨年度の事業報告書を作成していた 3 月 11 日の東日本大震災が発端でした。予定していた本年度の事業が認められるのか、もし認められたとしても電力事情の悪化により、夜や土曜日、そして夏季休業中の講座が開催できるのか、福島第一原発の放射能の影響で予定していた野外活動がどこまで影響を受けるのか等、すべてが見通しを持ってないままでの事業展開でした。

幸いにして、千代田区では電力問題や放射能問題は、あまり大きな影響を受けずに進めることができましたが、昨年度から外部評価の専門家として参加していただき、今年度はシンポジストとして参加していただいた福島県の相馬市にある原釜幼稚園の高橋園長先生のご自宅は、津波のために全壊されたというお話を伺い、関係者一同震災の怖さと身近さを実感いたしました。シンポジウムの中で、高橋先生が野外活動を支援する際に、自然とどうかかわれる子どもたちに育成していきたいかをもっと明確にしてほしいとおっしゃられたことが、とても深い意味をもっている言葉として受けとめることができました。

また 5 月には、私たちのこの事業の展開に期待と理解を示してくださっていた大場幸夫前学長が、急逝されましたことは、何よりも大きな出来事でした。児童臨床研究センターの行く末をいつも心配してくださり、もっと地域に根差した活動ができるといいねと励ましていただき、その中で現在の教育支援員の育成という事業展開が生まれてきたのです。地域の人々と共に在る大学を目指してこられた大場前学長の期待を裏切らないように、これからも地域の子どもたちやその家庭の幸せを支援していけるような事業展開を大事にしくことが基本であると改めて確認できた 1 年でした。

本年度は、昨年度に引き続いて、千代田区の幼稚園や小学校で必要とされている教育支援員を育成するために、以下の 3 つの育成プログラムを実施しました。その参加者は以下のようになっています。

① 特別支援教育支援員の育成プログラム	参加者	16 名
② 理科支援員の育成の育成プログラム	参加者	16 名
③ 野外活動支援員の育成プログラム	参加者	22 名
	合計	54 名

昨年度よりも、参加者が増えつつあることと、特別支援教育支援員は現場の先生方を対象にしたこと、理科支援員と野外活動支援員は学生も対象にしていることなど、大学が千代田区と連携して地域に貢献することの意味を探りながらの 2 年目の事業展開とな

りました。

その方向性は、外部の専門家によれば、まだ課題はあるが、かなり実現されているという高い評価を受けることができました。わたしたち関係者と運営スタッフにとっては、辛い1年間だったがゆえに、とても嬉しい結果となりました。これを励みに来年度をめざす元気をいただけたと思っています。

本プログラムを実施するにあたってお世話になりました、学内の関係者やスタッフの皆さま、そして協力をいただきました千代田区教育委員会の関係者の皆様方には、心よりお礼を申し上げます。

またこの報告書を地域の多くの方々に読んでいただき、地域の子どもたちとその家庭の幸せのために、保育や教育を通して大学がどのような支援をすることが求められているのかにつきまして、気軽にご意見を寄せていただけましたら幸いと存じます。

平成 24 年 3 月 吉日

大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター
所長 柴崎 正行

2 事業の概要

(1) 事業の名称

千代田区における教育支援員の育成に関する実践研究

(2) 事業の趣旨

千代田区においては、幼稚園・小学校における教育支援員が不足している状況である。そこで、大妻女子大学家政学部児童臨床研究センターと千代田区教育委員会が協力して、不足している特別支援教育支援員、理科教育支援員および野外活動支援員の教育支援員を育成するための有効な研修の在り方について、実践を基にした開発をしていくことを主旨とした。

当センターは、平成 19～21 年度の 3 年間にわたり文部科学省から委託を受け、「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業」を千代田区教育委員会と連携して実践してきた経緯がある。これらの蓄積を生かし、平成 22 年度は、「学生の地域活動」「社会人の学び直し」「大学の地域貢献」を目的として、現場の支援員、保育園・幼稚園・小学校から研修内容等についての調査を行い、試行的に育成を行った。その成果を生かし、今年度は、効果的な育成方法と在り方の開発に焦点を当てて改善を行った。

(3) 事業の内容

① 特別支援教育支援員育成プログラム

募集人数 20 人

現在、千代田区内で特別支援教育補助員である現職者を対象に、全 10 コマから構成される特別支援教育支援員育成プログラムを実施した。講師は特別支援教育の専門である大妻女子大学教員、他大学教員、および千代田区特別支援教育担当教員が中心であり、講義や演習だけでなく実践的内容（ディスカッション・ケース検討など）も含むことにより、基礎的知識・技術と実践力を育成し、かつ現場での実践を深め、還元できる力を育成した。

② 理科支援員育成プログラム・小学校教員対象理科研修

募集人数 10 人

小・中・高等学校教諭等の資格を持っている人々及び同等な経験を有して仕事を持たない人々を対象に、全 12 コマからなる理科支援員育成プログラムを実施した。講師は大妻女子大学教員及び千代田区立の理科担当小学校教員であり、講義や演習だけでなく実験・実習的研修も含むことにより、基礎的知識・技術と実践力を育成した。

③ 野外活動支援員育成プログラム

募集人数 20人

将来、教員免許や保育士資格を取得して現場に立つ学生を中心に、教育・保育活動時の野外活動における基礎知識や基礎技能を身に付ける研修を行う野外活動支援員育成プログラムを実施した。講師は、大妻女子大学教員及び幼稚園等での現場経験者であり、講義のみでなく実際に体験をする実習的研修も含む。

(4) 事業の期間

平成23年4月1日 ～ 平成24年3月31日

(5) 事業の実施日程

日程	事業の内容
4月1日	事務局の設置
5月初旬	各プログラムの研修内容と研修講師の決定
5月16日 ～28日	各プログラム 受講生の募集
6月1日	各プログラム 受講生の決定
6月11日	理科支援員育成プログラム・小学校教員対象理科研修 講座開始
6月18日	特別支援教育支援員育成プログラム 講座開始
6月25日	野外活動支援員育成プログラム 講座開始
11月19日	野外活動支援員育成プログラム 講座終了・受講生アンケート回収
1月7日	特別支援教育支援員プログラム 講座終了・受講生アンケート回収
1月29日	理科支援員育成プログラム 講座終了・受講生アンケート回収
3月4日	千代田学研究報告シンポジウム開催
3月31日	事業終了日

3 事業の実施体制

(1) 事務局

本プログラムの運営、研修に必要な書類の作成及び管理、講師、受講生との連絡等を実際に行う組織として、大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター内に事務局を置いた。

児童臨床研究センター所長（1名）、インテークワーカー（1名）、助手（1名）のほか、事務を取り扱う非常勤の専任スタッフ（1名）を配置した。

(2) 研究報告シンポジウム

本事業の運営・管理、プログラム内容、受講生の現場での貢献度、地域への貢献度など全体的な事業評価を行うことを目的としたシンポジウムを行った。シンポジストには、以下の通り、他大学の関係者や現場の教員などをお招きした。

氏名	所属
太田 俊己	植草学園大学
角谷 重樹	国立教育政策研究所
高橋 昇	私立原釜幼稚園

(3) 各プログラム担当

プログラム	氏名
特別支援教育支援員育成プログラム	柴崎正行・高橋ゆう子
理科支援員育成プログラム 小学校教員対象理科研修	石井雅幸・矢野博之
野外活動支援員育成プログラム	柴崎正行・川之上豊・加藤悦雄

(全て本学教授)

(4) 関連団体との連携状況

本委託事業は、千代田区教育委員会と連携を図りながら企画・運営をしている。千代田区教育委員会とは、次のような点で連携を図ることができた。

(1)千代田区教育委員会育成指導課課長・指導主事に、本プログラムの原案を練る際にご相談に乗っていただき、相互協力体制を作った。

- (2)受講者の募集において千代田区教育委員会に協力していただくことにより、地域の人々への情報発信の体制を作ることができた。
- (3)特別支援教育支援員育成プログラムにおいては、特別支援教育支援員の役割について明確にいただき、また、千代田区立幼稚園・小学校での実践を講座内で紹介していただいた。
- (4)理科支援員育成プログラムでは、千代田区立小学校での実践を講座内で紹介した。
- (5)野外活動支援員育成プログラムでは、実際に千代田区立幼稚園での行事に参加させていただいた。

4 実施した事業内容

<特別支援教育支援員育成プログラム>

回	講義日	時間	テーマ	講師
1	6月18日(土)	14時～16時	「支援員」に求められている役割について	柴崎 正行 (大妻女子大学)
2	6月23日(木)	18時～20時	「特別な支援」の必要な子どもの理解について	野本 茂夫 (國學院大學 幼児教育専門学校)
3	7月5日(火)	18時～20時	生活面での支援について	太田 俊己 (植草学園大学)
4	7月12日(火)	18時～20時	学習面での支援について	牧 真由美 (千代田区教育委員会)
5	7月20日(水)	18時～20時	保護者の理解と支援について	富田 久枝 (千葉大学)
6	9月6日(火)	18時～20時	地域の専門家との協働的な関係づくりについて	秦野 悦子 (白百合女子大学)
7	10月15日(土)	14時～16時	事例研究(幼児期)	柴崎 正行 (大妻女子大学)
8	10月27日(木)	18時～20時	事例研究(児童期)	高橋 ゆう子 (大妻女子大学)
9	12月10日(土)	14時～16時	グループカンファレンス1 (直面する課題)	柴崎 正行 (大妻女子大学) 山本 一之介 (千代田区教育委員会)
10	1月7日(土)	14時～16時	グループカンファレンス2 (課題解決の方向性)	柴崎 正行 (大妻女子大学) 山本 一之介 (千代田区教育委員会)

<理科支援員育成プログラム・小学校教員対象理科研修>

回	日時	テーマ	内容	講師、事業支援者
1	6月11日(土) 17:00~19:30	7月の3年~6年までの理科	3年 花が咲いたよ(生き物観察) 4年 星の観察(星の扱い) 5年 魚の誕生(顕微鏡操作) 6年 植物の体のはたらき(顕微鏡操作) 生き物のくらしと環境(光合成)	大妻女子大学 石井雅幸先生
2	7月25日(月) 18:00~19:30	9月の3、4年理科	3年 太陽と影の動きを調べよう 4年 月や星の動き	大妻女子大学 石井雅幸先生 科学技術館 木村かおる先生
3	8月22日(月) 18:00~19:30	9月の5、6年理科	5年 花から実へ 6年 太陽と月の形	大妻女子大学 石井雅幸先生 科学技術館 木村かおる先生
4	8月27日(土) 10:00~12:00	10月までの3、4年理科	3年 太陽の光を調べよう、風やゴムで動かそう 4年 ものの体積と力	大妻女子大学 石井雅幸先生
5	8月27日(土) 13:00~15:00	10月までの5、6年理科	5年 台風と天気、流れる水の働き 6年 大地のつくりと変化、	大妻女子大学 石井雅幸先生
6	10月1日(土) 14:00~16:00	11月までの5、6年理科	5年 ふりこのきまり 6年 てこのはたらき	大妻女子大学 石井雅幸先生
7	10月10日(月) 10:00~12:00	12月までの3、4年理科	3年 明かりをつけよう 4年 物の体積と温度、水のすがたとゆくえ	大妻女子大学 石井雅幸先生
8	10月10日(月) 13:00~15:00	12月までの5、6年理科	5年 人のたんじょう 6年 水よう液の性質	大妻女子大学 石井雅幸先生
9	12月4日(日) 13:00~15:00	1、2月の3、4年理科	3年 じしゃくにつけよう、物の重さを比べよう 4年 物のあたたまり方	大妻女子大学 石井雅幸先生
10	12月4日(日) 15:00~17:00	1、2月の5、6年理科	5年 物のとけ方・電流がうみ出す力 6年 電気とわたしたちのくらし	大妻女子大学 石井雅幸先生 国立第三小学校主幹 高木正之先生
11 12	1月29日(日) 10:00~12:00 13:00~15:00	1学期の理科	6年 物の燃え方と空気 4年電気の働き 3,4年 生き物 5年 植物の発芽と成長	大妻女子大学 石井雅幸先生

<野外活動支援員育成プログラム>

No	日時	テーマ	講師
1 2 3	平成23年6月25日(土)16:00 ~26日(日)15:00	自然体験活動の基礎知識学習と体験活動 * 自然の中で五感を生かせる遊びや生活の仕方などを学習し、子ども達に自然の楽しさを指導できるようにする。	柴崎正行先生、石井雅幸先生 加藤悦雄先生、川之上豊先生 (大妻女子大学)
4	平成23年7月23日(土) 14:40~18:00	幼児等の野外引率に関わる安全管理とリスクマネジメントについて	峯岩男先生 (ひさみ幼稚園(東松山)園長)
5	平成23年9月17日(土) 13:00~14:30	野外での救急法① けが等の対応と処置方法について	田中喜久美先生 (元甲府看護学校専任教員、看護師)
6	平成23年9月17日(土) 14:40~16:10	野外での救急法② 腹痛等の対応と処置方法について	吉澤穰治先生 (慈恵医科大学病院、小児科医師)
7	平成23年10月8日(土) 14:40~16:10	小学校での野外キャンプ意義と実際	林四郎先生 (北区滝野川小学校校長)
8	平成23年10月8日(土) 16:20~18:00	野外での危険な植物や虫等の対応について	須田真一先生 (東京大学大学院、特任研究員)
9	平成23年11月12日(土) 14:40~16:10	子どもにとっての野外活動の必要性について	柴崎正行先生 (大妻女子大学)
10	平成23年11月19日(土) 13:00~16:10	自然の中での遊び支援実習	北澤伸之先生 (ELFIN体験教育くらぶ)

5 応募者・受講者

<応募方法>

参加者の募集は、大妻女子大学関係者と千代田区教育委員会の関係者を中心に募集をした。

大妻女子大学関係者への募集方法としては、大学のホームページで本プログラムの紹介をし、各プログラム担当が関係者への紹介を行った。

また、千代田区関係者への募集方法としては、千代田区立の幼稚園・小学校に募集要項と申込書を学校長宛に送付し、周知をしていただくことが主な募集方法であった。

アンケート結果にも示される通り、「教員・知人の紹介」により応募した人が多く、大学のホームページなどよりも、大妻女子大学関係者や千代田区の教育関係者、学校へのピンポイントな周知の方法がより有効であると推測される。

また、実際に参加している人からの情報など、専門的つながりによって応募につながることもわかった。

<応募者・受講者数>

	応募者数	受講者数
特別支援教育育成プログラム	16名	16名
理科支援員育成プログラム 小学校教員対象理科研修	16名	16名
野外活動支援員育成プログラム	22名	22名
合計	54名	54名

6 受講者の評価

(1) 特別支援教育支援員育成プログラム

- 回答数 10名／受講者 16名（回答率 62.5%）

質問内容	強く 思う	少し 思う	余り思 わない	全く思 わない	わから ない	回答 無し
◆今回の10回の講座に関して						
1 今回の講座では、特別支援教育に関する考え方や技能を知る上で役立った	6	4	-	-	-	-
2 今回の講座では、講義や演習を通して、保育現場や教育現場の実情を知ることができた	7	3	-	-	-	-

3 今回の講座では、特別支援を要する児童・幼児を援助する際の活動内容を知ることができた。	3	5	2	-	-	-
4 この講座での教材資料提示は、授業の内容を理解するのに役立った	4	4	1	-	-	1
5 この講座での授業では、質問や意見を引き出し、受講者の積極的な参加を促した。	6	3	1	-	-	-
6 この講座での授業は講師の十分な準備と熱意をもって行われた	7	3	-	-	-	-
7 この講座での教室等の案内は、わかりやすいものであった	6	4	-	-	-	-
8 この講座の開講曜日や時間設定は適切であった	2	7	1	-	-	-
◆今後の特別支援教育支援員としての取り組みについて						
9 以前から、特別支援教育の専門性を深めたいという気持ちはあった	8	2	-	-	-	-
10 この講座を受けて、より特別支援教育に対する探究心が深まった	8	2	-	-	-	-
11 この講座を受けて、現場での特別支援教育の専門性を生かして行きたいという気持ちが強くなった	9	1	-	-	-	-
12 この講座を受けて、現場で行われている特別支援教育とのギャップを感じるようになった	7	2	1	-	-	-

質問内容	①	②	③	④	⑤	回答無し
◆今回の10回の講座に関して						
13 あなたの現在のお仕事をお聞かせ下さい ①現職者（正規・非正規）②子育て等により就業を中断したもの ③エト・ワーカー ④その他	9	-	-	1	-	-
14 あなたの年齢を教えてください ①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥その他	3	-	1	6	-	-
15 本プログラムを何でお知りになりましたか ①学び直し HP ②千代田区報 ③新聞・雑誌等 ④教員・知人の紹介 ⑤その他	-	-	-	6	4	-

16 本プログラムに応募してみようと思ったきっかけは ①再就職 ②キャリアアップ ③自己啓発 ④家族・知人に勧められたから ⑤その他	-	3	4	-	3	-
17 本プログラムをご友人やご親戚に勧めたいと思いま すか ①思う ②どちらとも言えない ③思わない	6	3	1	-	-	-
18 授業料が有料だったとしたら、受講料はどれくらい が妥当だと思いますか ①1000 ~ 2000②3,000③4,000 ~ 5,000④5,000 ~ 10,000⑤10,000~⑥1000 未満、無記入	2	1	1	1	3	2
19 受講料が有料の場合、受講していましたか？ ①受講していた②わからない③受講していない ④受講料が()円以下だったら受講していた⑤その他	5	3	2	-	-	-
20 講座終了後、受講認定証は必要ですか？ ①必要である ②必要でない ③その他	4	3	2	-	-	1

◆今回、講座を受けて良かった点はどのようなところですか？（自由記述）

- ・他校の情報がわかった。問題意識を共有できた
- ・いろいろな講師の先生のお話を聞いたこと。ふだん非常勤の立場だと、こういう講座に参加する機会がない。
- ・自分の職場だけではなくほかの職場の様子、支援員の働き甲斐がどこで生まれるか、秦野先生のグループワークの進め方のうまさ（ここまで人をしゃべらせてしまうのかと心底驚いた）
- ・講師からの講座の部分と支援員各々の考え方、また支援員同士で相談して発表する機会とがあり、大変勉強になった。
- ・支援員の環境の実状と支援員に求められていること等が明確に理解でき 頭の中が多少整理できた。
- ・他の学校の支援員の方と情報交換が出来た事。講師の先生方皆さんが支援員の味方であったこと（アドバイス等）
- ・各教育現場によって、特別支援の考え方が未だバラバラであると感じました。
- ・千代田区内の他の学校の現場を比較でき、改善点等が明確化した。
- ・具体的な支援のお話が（例をあげていただいて）一番身近に感じました。
- ・同じ立場の方たちと話す機会が多かったこと。

◆今回、講座を受けてみて、あなたにとって課題となった点はどのようなところですか？（自由記述）

- ・さらに勉強して専門性を高める必要を感じました。

- ・今回は話し合いの場が多く設けられていたので、その都度自分の支援についてふり返り課題を考えていくことができた。
- ・支援員のモチベーションが高まる条件、情報、担任教師との関係（私自身も 8 人の支援員の協力を得て現場を回す人間なので他人事ではなかった）
- ・支援員としての動き方、担任との連携の仕方、情報の共有に向けての姿勢などなど。
- ・担任の先生とのコミュニケーションの取り方。情報を自分からうまく収集する関わり方
- ・自分がいる現場が、他校と比べて改善する点が多々あることを思い知らされ、自分がこれからどう支援に係わっていくのかいろいろ考えさせられた。
- ・担任とコミュニケーション、また他学年の教員との共通理解、担当児童のさらなる理解。
- ・中学、高校、大学、社会と、対象の子どもがどうつながれるかを考えた指導をしなければならないということ。
- ・支援員の重要な立場を改めて感じたが この仕事はもっと専門知識のある方の仕事なのではと思います。経済的な理由で続けられない方がいるというお話も聞きます。経験も重要だと思います。今後改善が必要だと思いますが、その時 自分はどのように対応出来るか不安です。
- ・今後もし機会がりましたら、児童臨床研究センターの見学をさせていただきたいです。

◆今回の講座について感想、意見、今後に向けてなど、ご自由にご記入下さい（回数、期日、時間帯についてご意見をください）。（自由記述）

- ・受講者が少なく大変もったいなかったです。
- ・行われる曜日が前回は金曜の 6：00～が多かったのでその方が参加しやすい。
- ・支援員同士が話し合える場が多く設定されたことがよかったと思う。講師の先生はそれぞれ超一流の方々だったが、講座の流れの一貫性がうまくつかめず、高級品の寄せ集めの印象が残ってしまった。参加者の意向の含めて年間の流れが見えやすい（終わってからわかるでもいい）なるほどこういうことだったのかという全体構成になるといいと思う。
- ・支援員の研修の機会があることに感謝しています。
- ・事例研究やグループカンファレンスをより充実させてください。最初のほうの講義内容に興味を持てず出席されなくなった方も多いのかも・・・と感じました。
- ・来年度も講座を開講してください。
- ・このような機会を設けていただき、本当にありがとうございました。2 回目の受講でしたが、多くの方の意見や、専門の講師の方々のアドバイスを頂き、これからの特別支援に活かしていきたいと強く思いました。ぜひ来年度も開講していただけることを望んでいます。
- ・支援員の愚痴で終わったことが多かったので、まず自分たちにできることの改善を目指したいと思いました。

(2) 理科支援育成プログラム・小学校教員対象理科研修

<理科支援員育成プログラム>

●回答数 9 名 / 受講者 11 名 (回答率 81.8%)

質問内容	強く 思う	少し 思う	余り思 わない	全く思 わない	わから ない	回答 無し
◆今回の 15 回の講座に関して						
1、理科は、得意な方だと思っている。	-	2	4	2	-	-
2、今回の講座では、小学校理科の授業に関する考え方 や技能を知る上で役に立った。	6	3	-	-	-	-
3、今回の講座では、実験や観察を通して、小学校理科 の授業を知ることができた。	7	2	-	-	-	-
4、今回の講座では、野外での小学校理科の学習活動の 内容を知ることができた。	3	6	-	-	-	-
5、この講座での教材資料提示は、授業の内容を理解す るのに役立った。	8	1	-	-	-	-
6、この講座での授業では、質問や意見を引き出し、受 講者の積極的な参加を促した。	8	1	-	-	-	-
7、この講座での授業は講師の十分な準備と熱意をもっ て行われた。	8	1	-	-	-	-
8、この講座での教室等の案内は、わかりやすいもので あった。	7	1	1	-	-	-
◆今後の理科支援員としての取り組みについて *現職者用と異なる質問項目*						
9、以前から、時間が取れば小学校現場に理科支援員 として参加しようという気持ちはあった。	1	3	5	-	-	-
10、この講座を受けて、時間が取れば小学校現場に理科 支援員として参加しようという気持ちが強くなった。	2	7	-	-	-	-
11、この講座を受けて、小学校現場に何らかの形で支援 していこうという気持ちが強くなった。	6	3	-	-	-	-
12、この講座を受けて、小学校現場に入っていくことに 不安を感じるようになった。	1	2	6	-	-	-

質問内容	①	②	③	④	⑤	回答 無し
◆今回の15回の講座に関して						
13 あなたの現在のお仕事をお聞かせ下さい ①現職者(正規・非正規) ②子育て等により就業を中断したもの ③ニート・フリーター ④その他	-	-	-	9	-	-
14 あなたの年齢を教えてください ①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥その他	9	-	-	-	-	-
15 本プログラムを何でお知りになりましたか ①学び直し HP ②千代田区報 ③新聞・雑誌等 ④教員・知人の紹介 ⑤その他	-	-	-	9	-	-
16 本プログラムに応募してみようと思ったきっかけは ①再就職 ②キャリアアップ ③自己啓発 ④家族・知人に勧められたから ⑤その他	-	3	3	1	1	1
17 本プログラムをご友人やご親戚に勧めたいと思いますか ①思う ②どちらとも言えない ③思わない	5	4	-	-	-	-
18 授業料が有料だったとしたら、受講料はどれくらいが妥当だと思いますか ①1000~2000 ②3,000 ③4,000~5,000 ④5,000~10,000 円 ⑤10,000~ ⑥無記入	3	1	-	-	1	4
19 受講料が有料の場合、受講していましたか? ①受講していた ②わからない ③受講していない ④受講料が()円以下だったら受講していた ⑤その他	-	9	-	-	-	-

◆今回、講座を受けて良かった点はどのようなところですか? (自由記述)

- ・実験の意図が理解できた。児童の発達段階等を考慮したカリキュラムをしていることが理解できた。
- ・今まであやふやだったことがわかり、勉強になった。注意点等学べて良かった。
- ・楽しみながら実験をしたり、学んだりできた。苦手なこと(分野)が楽しいと思えた。
- ・知らなかったことを沢山学べてとても内容の濃い学習ができた。
- ・ひとりずつ理科の実験をすることができて、とても印象に残る内容だった。
- ・実際に実験器具を使ったことで、印象によく残った。
- ・多くの実験ができたこと。疑問や質問をすぐきけるところ。
- ・小学校で学習した事柄を振り返ることができた。
- ・授業より深く、理科について学ぶことができたし、指導上のポイントも知ることができた。

- ・小学校ではどのように授業が行われているのかを知ることができた点。

◆今回、講座を受けてみて、あなたにとって課題となった点はどのようなところですか？（自由記述）

- ・理論上の知識は多少あったが、車を作ったり図工のようなことをするのが苦手であることに気づいた。
- ・知識。
- ・実際に現場でできるか。（私が）
- ・電気の所がやっぱりまだ苦手なのでもっと学ばなければいけないと思った。
- ・事象に対して、「なぜだろう」と疑問に思うこと。基本的な知識量の少なさ。
- ・知識だけで終わるのではなく、この学びを活かすこと。
- ・理科の知識が十分に定着していない。
- ・指導上のポイントを未だ自分で勉強できていないと思った。
- ・単にキットを用いるのではなく問題解決につながるような提示（発問）の仕方。

◆今回の講座について感想、意見、今後に向けてなど、ご自由にご記入下さい（回数、期日、時間帯についてご意見をください）。（自由記述）

- ・社会人の方にとっては参加しにくいのかも知れないが、学生としては無理なく参加できて良かった。
- ・学び直しができてよかった。
- ・楽しかったです。

<小学校教員対象理科研修>

- 回答数 3 名 / 受講者 5 名（回答率 60.0%）

質問内容	強く 思う	少し 思う	余り思 わない	全く思 わない	わから ない	回答 無し
◆今回の 15 回の講座に関して						
1 理科は、得意な方だと思っている。	-	3	-	-	-	-
2 今回の講座では、小学校理科の授業に関する考え方や技能を知る上で役に立った。	1	2	-	-	-	-
3 今回の講座では、実験や観察を通して、小学校理科の授業を知ることができた。	2	1	-	-	-	-
4 今回の講座では、野外での小学校理科の学習活動の内容を知ることができた。	1	-	1	-	1	-

5 この講座での教材資料提示は、授業の内容を理解するのに役立った。	1	2	-	-	-	-
6 この講座での授業では、質問や意見を引き出し、受講者の積極的な参加を促した。	3	-	-	-	-	-
7 この講座での授業は講師の十分な準備と熱意をもって行われた。	3	-	-	-	-	-
8 この講座での教室等の案内は、わかりやすいものであった。	1	2	-	-	-	-
◆今後の理科支援員としての取り組みについて *学生用と異なる質問項目*						
9 以前から、理科教育の専門性を深めたいという気持ちはあった。	3	-	-	-	-	-
10 この講座を受けて、より理科教育に対する探究心が深まった。	2	1	-	-	-	-
11 この講座を受けて、小学校現場での理科教育の専門性を生かして行きたいという気持ちが強くなった。	1	2	-	-	-	-
12 この講座を受けて、小学校現場で行われている理科教育とのギャップを感じるようになった。	--	1	1	1	-	-

質問内容	①	②	③	④	⑤	回答無し
◆今回の15回の講座に関して						
13 あなたの現在のお仕事をお聞かせ下さい ①現職者（非正規はカッコ内数） ②子育て等により就業を中断したもの ③ニート・フリーター ④その他	2	1	-	-	-	-
14 あなたの年齢を教えてください ①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥その他	1	2	-	-	-	-
15 本プログラムを何でお知りになりましたか ①学び直し HP ②千代田区報 ③新聞・雑誌等 ④教員・知人の紹介 ⑤その他	1	-	-	2	-	-
16 本プログラムに応募してみようと思ったきっかけは ①再就職 ②キャリアアップ ③自己啓発 ④家族・知人に勧められたから ⑤その他	-	1	2	-	-	-

17 本プログラムをご友人やご親戚に勧めたいと思いますか ①思う ②どちらとも言えない ③思わない	3	-	-	-	-	-
18 授業料が有料だったとしたら、受講料はどれくらいが妥当だと思いますか ①1000～2000②3,000③4,000～5,000④5,000～10,000円⑤10,000～⑥無記入	3	-	-	-	-	-
19 受講料が有料の場合、受講していましたか？ ①受講していた②わからない③受講していない ④受講料が()円以下だったら受講していた⑤その他	-	3	-	-	-	-

◆今回、講座を受けて良かった点はどのようなところですか？（自由記述）

- ・質問をする機会が多かったので勉強になった。
- ・教材研究を一から始めなくてもよいくらいの知識を得られたと思う。

◆今回、講座を受けてみて、あなたにとって課題となった点はどのようなところですか？（自由記述）

- ・生き物の観察時期と留意点について

◆今回の講座について感想、意見、今後に向けてなど、ご自由にご記入下さい（回数、期日、時間帯についてご意見をください）。（自由記述）

- ・希望日のみ選択して参加できる点が良かった。
- ・1回しか参加しなかったため、今後は続けて講座に参加したいです。

(3) 野外活動支援員育成プログラム

回答数 22 名 / 受講者 22 名 (回答率 100%)

質問内容	強く思う	少し思う	余り思わない	全く思わない	わからない	回答無し
◆今回の 15 回の講座に関して						
1 野外活動は、得意な方だと思っている。	2	8	11	1	-	-
2 今回の講座では、野外活動に関する考え方や技能を知る上で役に立った。	18	4	-	-	-	-
3 今回の講座では、現場での指導者からの講義や現場での支援を通して、野外活動に必要な心構えを知るこ	19	3	-	-	-	-

とができた。						
4 今回の講座では、野外活動の内容を知ることができた	15	7	-	-	-	-
5 この講座での教材資料提示は、授業の内容を理解するのに役立った	15	6	1	-	-	-
6 この講座での授業では、質問や意見を引き出し、受講者の積極的な参加を促した。	4	12	5	-	-	-
7 この講座での授業は講師の十分な準備と熱意をもって行われた	19	2	1	-	-	-
8 この講座での教室等の案内は、わかりやすいものであった	15	5	2	-	-	-
◆今後の野外活動支援員としての取り組みについて						
9 以前から、時間が取れば保育園・幼稚園・小学校現場に参加しようという気持ちはあった	12	9	1	-	-	-
10 この講座を受けて、時間が取れば保育園・幼稚園・小学校現場に野外活動支援員として参加しようという気持ちが強くなった	15	6	1	-	-	-
11 この講座を受けて、保育園・幼稚園・小学校現場に何らかの形で支援していこうという気持ちが強くなった	15	7	-	-	-	-
12 この講座を受けて、保育園・幼稚園・小学校現場に入っていくことに不安を感じるようになった。	1	8	8	3	2	-

質問内容	①	②	③	④	⑤	回答無し
◆今回の15回の講座に関して						
13 あなたの現在のお仕事をお聞かせ下さい ①現職者（正規・非正規）②子育て等により就業を中断したもの ③ニート・フリーター ④その他	-	-	-	22	-	-
14 あなたの年齢を教えてください ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥その他	5	17	-	-	-	-
15 本プログラムを何でお知りになりましたか ①学び直し HP ②千代田区報 ③新聞・雑誌等	-	-	-	19	3	-

④教員・知人の紹介 ⑤その他						
16 本プログラムに応募してみようと思ったきっかけは ①再就職 ②キャリアアップ ③自己啓発 ④家族・知人に勧められたから ⑤その他	1	6	13	1	1	-
17 本プログラムをご友人やご親戚に勧めたいと思いま すか ①思う ②どちらとも言えない ③思わない	15	6	-	-	-	-
18 授業料が有料だったとしたら、受講料はどれくらい が妥当だと思いますか ①1,000 ~ 2,000②3,000③4,000 ~ 5,000④5,000 ~ 10,000 円⑤10,000~⑥1,000 未満、無記入	9	1	3	-	2	1000 未満 2 無記入 5
19 受講料が有料の場合、受講していましたか？ ①受講していた②わからない③受講していない ④受講料が()円以下だったら受講していた⑤その他	2	14	4	2	-	-
20 講座終了後、受講認定証は必要ですか？ ①必要である ②必要でない ③その他	19	2	1	-	-	-

◆今回、講座を受けて良かった点はどのようなところですか？（自由記述）

- ・公園などに行って実際にみたり体験するところが良かったです。
- ・遊び方とか、植物や動物の種類とか知らないことがわかった。
- ・沢山自然に触れ合うことができた。
- ・野外というのは楽しい半面、危険なこともたくさんあると知り、ためになった。
- ・野外活動についての知識が深まり、ためになった。
- ・野外活動を行う上での知識を得ることができ、視野が広がったところ。
- ・キャンプでの野外活動を通して野外活動の難しさを知った。
- ・キャンプでみんなでご飯を作って食べた。
- ・実際に自分たちで体験しながら学べた点。キャンプではネイチャーゲームをしたり、野外で調理をしたことや公園へ行って動植物に触れたり見ることができ、普段はなかなかできない体験だった。
- ・実際キャンプに行けて体験できたこと。
- ・応急処置のやり方や実践できたこと。
- ・危険な植物や動物、虫について知ることができた。
- ・野外活動にはいろいろな楽しさとたくさんの危険があるということがよくわかった。
- ・医療や昆虫など様々な分野から野外支援について学べたこと。
- ・実際に野外に出かけたりと、実際に経験できて良かった。

- ・看護師の方など専門家の方に実際に応急手当の仕方などを教えていただいた事。
- ・自分の知らない知識を学べた事。(自然のものを使った遊びなど)
- ・野外活動の中で楽しいこともあります、危険な事もたくさんある事を知れたこと。
- ・虫や植物の危険性についての講座が印象的でした。
- ・実際に先生などの話を聞けたり、経験することができたところ。
- ・公園などにいる危険な生物を学べてとても勉強になった。
- ・実際に自然と触れ合い、自分の目で自然、現場を確かめる事ができた事。

◆今回、講座を受けてみて、あなたにとって課題となった点は良かった点はどのようなところですか？（自由記述）

- ・こどもの安全を考える上でまず自分の知識が無くてはならないと思いました。自分の知識を向上させたいと思います。
- ・危険な動植物について自分で判断できるくらいの知識をつけること。
- ・積極的に行うこと。
- ・子どもを危険から守るために大人たちがどのような対応をとれば良いのか考えさせられた。
- ・今回学んだことを生かしながら、野外活動を楽しむこと。
- ・今までの活動や経験したことをどう活かしていけばよいか考えていくこと。
- ・自ら行動する力。
- ・実際に子供達と野外活動をして習ってきたことを活かす。
- ・自然について道具等の知識もなく、普段野外活動もあまりして来なかったので、今回学んだことを生かせるよう公園に行ったり自分で体験する機会を作りたいと思う。
- ・安全の確保。
- ・身の辺にあるものも危険性も頭に入れておくこと。
- ・身の回りにある動物や植物の名前や特徴をあまり知らなかった。
- ・知識がないと危険なことがたくさんあるので、野外活動の知識を増やすこと。
- ・ここで学んだことが実際に生かせるのか、野外支援に参加したい。
- ・もっと経験が必要であると感じた。
- ・実践が少ないため、もっと野外活動に積極的に参加し、経験値を上げたいと感じた。
- ・自然のものの名前や種類など知らなすぎる。
- ・大人と子どもでの行動・判断の違いを見極める力を付ける事です。
- ・実際子どもがいる現場で、得た知識を活用できるかどうか
- ・もっとたくさんの知識を持っていないといけないと思った点。
- ・自然物に対する観察力。
- ・野外では想像、予想外の事が起こる事を学んだ為、適応力が大切だと思ったが自分には適応力がないことも感じ今後の課題となった。

◆今回の講座について感想、意見、今後に向けてなど、ご自由にご記入下さい（回数、期日、時間帯についてご意見をください）。（自由記述）

- ・外に出たの体験ではない講義で有るなら土曜日ではなく平日でも良かったように思います。
- ・実際にキャンプしたり、公園に行ったりできたので、楽しく学ぶことができました。
- ・一つ一つの講座の内容が深く、授業だけでは得られない学びをすることができてよかったです。
- ・1日の講義の時間が長い。
- ・とても楽しかったし、ためになりました。
- ・今まで野外活動に関して全く知識がなかったが、川の近くにある石であったり、色々な長さの紐等、身近なものを工夫して用いることで、子ども達と様々な遊びができるのだと知り、その他にも自然にある危険等体験を通し、自分で考えたり感じたりして、野外活動に関して学ぶことができ、貴重な体験だった。
- ・期間、時間帯などは調度良かったです。
- ・午前中にして欲しかった。
- ・回数が少し多かった。土曜日にあるのも少し困った。
- ・何度かお休みしてしまいましたが、授業は実践的で今後に活かしていきたいと思う。
- ・実習で何度か欠席してしまいましたが、幼稚園の行事など実際に参加でき良い経験になった。
- ・座学だけでなく外に出て実際に行う講座もあったので良かったです。
- ・昨年より講座の内容も増え楽しく受講することができました。
- ・とても為になりました。この経験を今後活かしていけたらいいと思いました。
- ・キャンプはとても楽しかった。もっと子供と関わる機会がほしいです。
- ・野外での遊び、保育者の動きや配慮、安全対策や応急処置など実践的なことから子どもにとっての野外活動の必要性まで幅広く学べ、今後の学びにもつながる貴重な学びとなった。

7 事業評価（外部評価）

平成23年3月4日（日）13:00より、本事業の運営・管理、プログラム内容、受講生の現場での貢献度、地域への貢献度など全体的な事業評価を行うことを目的とした公開シンポジウム「平成23年度千代田学研究報告シンポジウムー教育支援員の育成と課題ー」を行った。

シンポジストからあがった評価内容は以下の通りである。

(1) 事業の運営について

- ・支援員育成に対する国の予算は少ない中、このような研修は続ける意義がある。
- ・アンケート結果を見ると、全体的に評価が高い。これは、事業自体がうまくいっているという証である。
- ・一部の項目を使って、受講前後の変容がわかるアンケートを取ると、事業の説得力が増

すと思われる。

- ・少ないスタッフ数で、事業をよく回せており、非常に効率が良い。

(2) 特別支援教育支援員の育成について：太田俊己氏（植松学園大学 教授）

- ・全国的にも特別支援教育の支援員の研修はまだ始まったばかりであり、その意味では先駆的な取り組みであるといえる。
- ・千代田学という取り組みの特徴もあって、千代田区の現状に合わせた研修の在り方を検討しており、地域性を大事にしている。
- ・現場で支援員をしている方たちの研修なので、研修にも熱が入っており、熱心な取り組みであるといえる。
- ・特別支援教育の柱は、コーディネーターと個別の支援計画であり、それを支援員がどう支援と絡めていくかがもうひとつ明確になっていない。
- ・支援への取り組みは担任教師の責任でなされていくことであり、その意味では担任の指導の方向性とどう連携しながら支援していくかが明確でない。
- ・今後は大学のバックアップを得て、継続的・発展的に展開できるようになることを期待している。

(2) 理科支援員の育成について：角屋重樹氏（国立教育政策研究所 基礎研究部長）

- ・少ない予算にもかかわらず、よく研究・実践されていることに、正直驚いている。
- ・参加者のアンケートによる評価は高い値を示しており、うまくいっているといえよう。
- ・評価は、実施前と実施後との変化を見ることが大事になるので、今後は実施前にも実態を自己評価してもらうアンケート調査を実施すべきである。
- ・即戦力的な研修内容ばかりでなく、この研修を通して理科をどのように見られるようになったかというような科学する力の成長を視野に入れた評価の仕方が必要だろう。
- ・特に学生の支援員に対しては、長期的に理科をどう好きにしていけるのか、というようなビジョンのある研修内容が求められよう。

(3) 野外活動支援員の育成について：高橋昇氏（原釜幼稚園 園長）

- ・野外活動における安全管理や危機管理等の学びについてはよく配慮してあるといえる。
- ・地域の危険や安全のことは地域の専門家が一番よく知っているのも、もっと地域の人たちを活用することも必要ではないか。
- ・しかし、このプログラムでどのような野外活動支援員を育成しようとしているのかが、いまひとつ明確に伝わってこない。
- ・今の学生は、物の豊かさに慣れているので、物がなくても野外活動を楽しめることや、身体や自然物をもっと使って活動する体験を積極的に取り入れていくと良いといえる。
- ・女子大ではあるが、地域の他大学の男子も参加できるようにして、公園や野原などで子

子どもたちの喜ぶダイナミックな活動をたくさん取り入れられるようになるとよい。

8 本事業のまとめ（内部評価）

（1）特別支援教育支援員育成プログラム

<参加者の募集について>

- ・本年度は5月に募集ができたことで、期間的には丁度良かった。
- ・本年度は、現在千代田区内で支援員をしている方を対象にしたので、参加者が16名とやや少なかった。もっと対象の範囲を広げても良かったのではないかと。
- ・幼稚園と小学校では支援内容が違うので、グループで話し合いをするときに、幼稚園関係者が少なくて困っていた。次回に募集するときには小学校14名、幼稚園6名というように人数の指定をしておく方が良いと思われる。

<育成プログラムの内容について>

- ・実際の支援の内容に関する事柄が多かったため、参加者には概ね好評であった。しかし、実際の支援現場に行く機会がなかったため、見たかったという声も聞かれた。
- ・グループで課題等について話し合う機会が多く参加者には好評であった。しかし、事例検討等を通しての具体的な場面に関する理論的な検討が少なく、話し合いだけでなく、それを深めていく方法についても学びたいという声も聞かれた。
- ・最後の数回は、自分たちが不安や不満に思っている内容を、KJ法で分析することによって、その原因や要因などを冷静に検討することができたため、良かったという声も聞かれた。

<講師について>

- ・昨年に引き続いて講師の方々ばかりなので、安心して質問したり、話せるようになったという声も多く聞かれた。また講師の方のグループへの参加の仕方をみることで、人の話の聞き方を学べたという声も多く聞かれた。
- ・昨年も出ていたが、講師が毎回変わるのではなく、2回連続のような形になると、前回の内容に対する質問や議論がしやすくなるという意見が、今年度も聞かれた。

<実施時期と時間について>

- ・土曜日の午後を中心にしていたが、土曜日に都合で出られない人には残念な日程であるという声も聞かれた。
- ・平日の金曜日でも良いという意見や、夏休みなどに何回かは集中しても良いのではという声も聞かれた。

(2) 理科支援員育成プログラム

<ねらいにもとづく企画について>

保育士や幼稚園教諭、小中学校教諭、家庭科教諭等の免許状を持つ人及び同等の経験を有している人を対象に、大妻女子大学と千代田区教育委員会とが連携して、小学校で教員の苦手意識が強い理科教育の支援プログラムとして、理科支援員養成と小学校教員対象の理科研修を同時に実施していく。(23年度 受講生募集要項の主旨から)

千代田区内の小学校は、若手教員が増加している。また、現職の経験豊かな教員の中にも理科に苦手意識が強い。以上のような学校現場のニーズに基づいた研修会を企画した。また、理科支援員養成に関しては、千代田区が理科支援員を学校現場に配置する限りは養成を行う必要があると考え、理科支援員養成研修を企画した。さらに、19年度から行ってきた理科支援員養成研修においては、現職教員も参加しての研修が行われてきていた。その際に、現職教員と理科支援員を希望する人と合同で研修することにより、理科支援員を希望する人が学校現場を知る良い機会となるだけでなく、学校現場の教員も理科支援員をいかに学校現場で動かすかを考えるよい機会となっていた。そこで、22年度に引き続き今年度も、本趣旨に従って研修員の募集を行い、研修の企画を行うことにした。

<日程の組み方>

今回の研修においては、千代田区で採用している理科の教科書の年間指導計画に従って、授業実施2から3か月後の内容を先取りして行うように研修計画を組んだ。また、現職教員に関しては、研修員が希望する研修内容を選択的に研修を受けることができるようにした。ただし、理科支援員養成としての研修参加者は、全研修に参加することを原則とした。

<事業内容>

理科支援員を将来希望する人(23年度は学生と社会人が参加)と小学校教員を対象にした研修会であるが、現職教員の研修を優先して、研修内容を計画した。具体的には、平成23年理科研修プログラムに載せたように計画した。この計画では、前述したように千代田区内の小学校の授業内容を先取りする形で企画をしている。そこで、研修開始の6月には夏季休業の直前に行う学習内容を取り上げ、続いて小学校夏季休業期間には、小学校の9月～10月頃の学習内容に関する研修を行うようにした。また、それ以後の研修会は、各小学校の学習内容を2から3ヶ月先取りして行うようにした。そこで、活動計画表のように、開催日時とともに、開催内容並びにその内容が各小学校のいつごろ授業実施となるかを併記するようにした。また、本研修会の後半は、次年度の1学期の学習内容を扱うようにし、次年度の1学期の学習内容に対応できるようにした。このことにより、全12回で小学校の理科の学習内容のおおよそを網羅できるようにした。また、現職教員が選択的に参加しや

すいように、中学年と高学年の内容に分けて予定を組んだ。

実際に研修会を実施したところ、研修時間内に予定したすべての内容を終わらせることは難しかった。また、ここであげた内容も、小学校理科の学習内容のすべてを完全に網羅したのではなく、その一部になっている。特に、今年度は野外での活動を伴う学習内容は扱っていない。本研修であげた内容は、計画をした石井が、経験的に教師自身がつまづきやすいと想定できた内容を優先している。調査したところでは、小学校で行っている観察・実験は150ほどあり、そのすべてを取り上げていくことは不可能である。そこで、その一部を取り上げた。しかし、時間内にあげたものすべてを丁寧に扱うことも難しかった。

研修の中身としては、観察・実験の技能が中心であるが、以下の点を考慮して研修を行っていった。

1. 取り上げた観察・実験を行う意味を子どもが主体的に問題解決を行う上で、子どもが、子ども自身のどのような考えを確かめるために行うのかを明らかにする。
2. この観察・実験を行う中でどのような技能を子どもが獲得していくのか。
3. 観察・実験の手順で操作を行っていく。
4. 安全上の配慮点を熟知してもらうように、実習を交えながら行っていく。

これだけの内容をそれぞれの観察・実験で操作を行いながら実施したために、多くの時間を必要とした。今後時間の取り方、内容の精選を検討していく必要がある。22年度の反省を踏まえて、研修の重点化を図るとともに、テキストを作成・配布して実習ができない内容をテキストで補えるようにした。

安全指導を必要とする内容の実技研修には、多くの時間を割く必要があるので最重点内容とした。

最後に、事業終了後に定めた回数以上の出席者には、修了書を今年度は配布した。

<場所、設備>

すべての回を、本学の絵画室で行った。今後を考えると、千代田区内の小学校理科室を活用していきたい。しかし、土日祝日の開催となると、その学校の職員に迷惑をかけることになる。大学の実験室等を活用して、現職の研修もできる体制を検討していきたい。

<その他>

学生は、それなりの数を集めることができた。しかし、今年度も現職の教員は参加が少なく、とても残念だった。23年度は、22年度に比べて早めの開始と早い時期から千代田区教育委員会を通して小学校に声をかけていくことを行ったが、現職の先生方の参加は少なかった。今後、都内全域から声をかけていくのも方法と考える。また、東京都教職員研修センターなどの公的な教員研修センターと連携した研修システムの構築も視野に入れていく必要がある。千代田学と言いながらも、千代田区の教育の質を上げることは全都の教育の質を上げる必要がある。地域貢献をも視野に入れながら本学ができる範囲、できる内容か

ら積極的な検討が求められる。

平成 23 年度 小学校理科研修プログラム

回	日時	テーマ	内容
1	6月11日(土) 17時から19時30分	7月の3年から6年までの理科	3年 花が咲いたよ(生き物観察) 4年 星の観察(星の扱い) 5年 魚の誕生(顕微鏡操作) 6年 植物の体のはたらき(顕微鏡操作) 生き物のくらしと環境(光合成)
2	7月25日(月) 18時から19時30分	9月の34年理科	3年 太陽と影の動きを調べよう 4年 月や星の動き
3	8月22日(月) 18時から19時30分	9月の56年理科	5年 花から実へ 6年 太陽と月の形
4	8月27日(土) 10時から12時	10月までの34年理科	3年 太陽の光を調べよう、風やゴムで動かそう 4年 ものの体積と力
5	8月27日(土) 13時から15時00分	10月までの56年理科	5年 台風と天気、流れる水の働き 6年 大地のつくりと変化、
6	10月1日(土) 14時から16時	11月までの56年理科	5年 ふりこのきまり 6年 てこのはたらき
7	10月10日(月) 10時から12時	12月までの34年理科	3年 明かりをつけよう 4年 物の体積と温度、水のすがたとゆくえ
8	10月10日(月) 13時から15時	12月までの56年理科	5年 人のたんじょう 6年 水よう液の性質
9	12月4日(日) 10時から12時	1, 2月34年理科	3年 じしゃくにつけよう、物の重さを比べよう 4年 物のあたたまり方
10	12月4日(日) 13時から16時	1, 2月56年理科	5年 物のとけ方・電流がうみ出す力 6年 電気とわたしたちのくらし
11 12	1月29日(日) 10:00～12:00 13:00～15:00	1学期の理科	6年 物の燃え方と空気 4年電気の働き 34年 生き物 5年 植物の発芽と成長

<総括>

理科研修を企画した立場から評価委員、受講者のアンケートから言っても内容、時期、ともにおおむねよかったと考える。しかし、反応がよい割には受講希望者が少なく、募集方法、設定時期、時間帯など検討がもとめられる。また、理科支援員養成と現職教員の研修の併用の難しさもある。両者の必要性の違いも大きな要因となっている。今後の大きな検討課題でもある。

<今後の可能性>

小学校理科教育が抱える課題をもとに、①理科支援員の将来性、②小学校理科の現状の2点から今後の研修のあり方の検討をしていきたい。

①理科支援員の将来性

平成21年度末に行われた政府の事業仕分けの対象としてあがった「小学校理科支援員」であるが、小学校現場の実状を考えると必要不可欠であると言える。そこで、学校設置者である各区市の教育委員会は独自の予算を立てて理科支援員の配置を続けている。また、地元の千代田区が継続をしている限りは、本学として継続して理科支援員の養成講座を継続していくことが求められる。それらを踏まえても、本学が地域の千代田区にはたす大切な役割の一つといえる。また、小学校教員を目指す本学科の学生にとっても理科が得意な小学校教員として卒業できることは大きな意味をもつと考える。

②小学校理科の現状

前述してきたように、小学校現場は若手教員が増加している。その点は大きな意味も持っていると言える。しかし、この若手の多くが理科を苦手としているという事実もある。そこで、学校現場としては、若手教員をはじめとする理科苦手教員の研修の場をつくることは求められている。東京都教員研修センターでは、石井と協議しながら理科苦手教員対象の研修会を開催してきている。そこでも多くの内容をこなしてきている。また、この研修会の参加率も、参加者の反応もよい状況である。しかし、この研修会の数の限度や勤務時間内に行うことの課題もある。そこで、本学が今回行った土日や祝日を使っての研修のあり方も一つの方法であると言える。

東京都教職員研修センターの実例を見ても、小学校教員を対象とした理科の授業内容に迫る研修のニーズは高いと言える。そこで、本学としてもできる範囲の中で地元の小学校教育への貢献と言った観点からも研修のあり方を含めた研究とその研究成果を踏まえて研修会の実施が求められる。

また、今年度作成していったテキストをより見やすく、扱いやすいものに改善し、テキストを使っての現職教員の理科自主研修ができるような支援体制を作っていきたい。

③24年度の内容構成に向けて

観察・実験の操作研修は、内容を網羅するだけでなく重点化が必要である。重点化の一つの方向性として以下の点をあげていく。

- (1) 安全にかかわる指導で必要なもの
- (2) 問題解決の過程での各学年の核となる内容にかかわる重要な(多く行なわれる)観察・実験
- (3) 基礎基本となる器具操作を伴う観察・実験

(3) 野外活動支援員育成プログラム

<参加者の募集方法について>

- ・今回は昨年の反省を踏まえ幅広く募集を行った結果、児童学科以外の学生は1名ではあったが日本文学科の学生（日頃子どもと関連のボランティア活動実践者）が参加した。来年度は他学部・他学科以外に、近隣の大学生（法政大学等）で野外活動に興味・関心がある学生にも広報活動を実施したい。

<参加者の参加人数について>

- ・今回は募集人数を20名であったが、参加希望者は22名（児童学科21名・日本文学科1名）で、昨年受講した学生も3名参加した。
- ・来年度の募集人数について、千代田区の保育園や幼稚園からの支援要請は年々増えているが、平日の授業時に派遣要請が多いために参加出来る学生が少ない。派遣要請に出来るだけ応えるためにも参加人数を40名程度に増やす必要があると考える。

<育成プログラムの内容について>

- ・今年度は野外活動での危険な昆虫や植物、また医学的（救急法や内科的疾患）な内容に取り入れ内容の充実を図ったが、参加者自身の野外体験が少ないこともあるので、来年度は出来るだけ体験活動を多くしたいと考える。

<育成プログラムの講師について>

- ・医師・看護師・幼稚園園長・小学校校長・野外活動の指導者を講師に招いたことで、参加者にとって色々な立場の人々に話を聞いたことで、支援員になるための学びを深めることの大切さに気づいた学生が多かったように思う。
- 来年度も出来るだけ多くの講師を招いて、充実したプログラムとしたい。

<育成プログラムの実施時期と時間について>

- ・出来るだけ早い時期に育成をしたいが、支援員として活動が出来る様にするために、夏

休みに集中的に体験活動をさせたいと考える。

- ・また支援員として実体験をした後に振り返りを行い、支援員としての学びを深める必要性があるとする。

<千代田区との連携について>

- ・野外活動支援員の派遣を希望する園や学校からはできるだけ早く予定したいという声が多いので、7月下旬から派遣できるように実践育成講座を組む必要がある。
- ・それ以前の派遣について、今年度の修了者を派遣できるようにしたい。

12 おわりに

3月も終わろうとしておりますが、まだまだ冬のような寒さが続いています。いつもの季節ならば、靖国神社や千鳥が淵の一带は、桜の名所でもあり大勢の見物人でにぎわう時期なのに、今年はようやく梅の花が満開となり春の訪れを告げている段階です。こうして平成23年度の千代田学の事業報告書が完成して、いろいろありましたが無事1年間を乗り越えることができましたこと、関係者の皆様方のご支援の賜物と深く感謝しております。

今年度は、児童臨床センターのスタッフの中心となっていた坪井さんが大学に移り、新たに田代さんが重責を担ってくださいました。はじめての年にもかかわらず、落ち度なく運営を担っていただけましたこと、心より感謝を申し上げます。また助手の平野さんやアルバイトでアシスタントを担っていただいた鈴木さんにも、心より感謝を申し上げます。所長を入れてわずか4人のスタッフで、しかも少ない予算の中で、最大限の地域支援を目指して協力できた心強い仲間であることを自負しております。

幸いにして、本事業は来年度も継続できることが決定しております。私は体調のこともあって、所長を任期途中で退任し、後任として阿部和子教授に新所長をお願いすることができました。私よりも仕事が丁寧であり、しかも事業の発展が期待できる阿部先生に引き継いでいただけることが、何よりも安心です。

本事業が、千代田区のみならず、周辺の区とも連携を強めることにより、地域の子どもたちと家庭がより幸福な暮らしを築いていけるようになることを願ってやみません。私もこれからはセンターの一所員として参加していくつもりでおります。

最後になりましたが、本年度の事業を支えてくださった、千代田区教育委員会の関係者の皆様、大妻女子大学の事務局やセンター所員の皆さま、そして講師の方々、何よりも参加して地域の支援を担っていただいた受講生の皆様に、心より感謝とお礼を申し述べたいと存じます。

平成24年 3月末日

大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター
所長 柴崎 正行

平成 23 年度
千代田区委託 千代田学
「千代田区における教育支援員の育成に関する実践研究」
成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日発行

発行者： 大妻女子大学家政学部児童臨床研究センター
〒102-8357 東京都千代田区三番町 12
TEL: 03-5275-6129 FAX: 03-5275-5252